

高等学校学習指導要領改訂のポイント

1 国語

(1) 改訂の基本的な考え方

ア 国語科については、その課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。

そのため、現行の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」からなる領域構成は維持しつつ、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることに資するよう、実生活の様々な場面における言語活動を具体的に内容に示す。また、現行の〔言語事項〕の内容のうち各領域の内容に関連の深いものについては、実際の言語活動において一層有機的にはたらくよう、それぞれの領域の内容に位置付けるとともに、必要に応じてまとめて取り上げるようにする。

また、〔言語文化と国語の特質に関する事項〕を設け、我が国の言語文化に親しむ態度を育てたり、国語の役割や特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりするための内容を示す。

イ 子どもたちの発達の段階を踏まえた学習の系統性を重視し、学校段階・学年段階ごとに、具体的に身に付けるべき能力の育成を目指し、重点的な指導が行われるようにする。その際、小学校においては日常生活に必要な国語の能力の基礎を、中学校においては社会生活に必要な国語の能力の基礎を、高等学校においては社会人として必要な国語の能力の基礎をそれぞれ確実に育成するようにする。

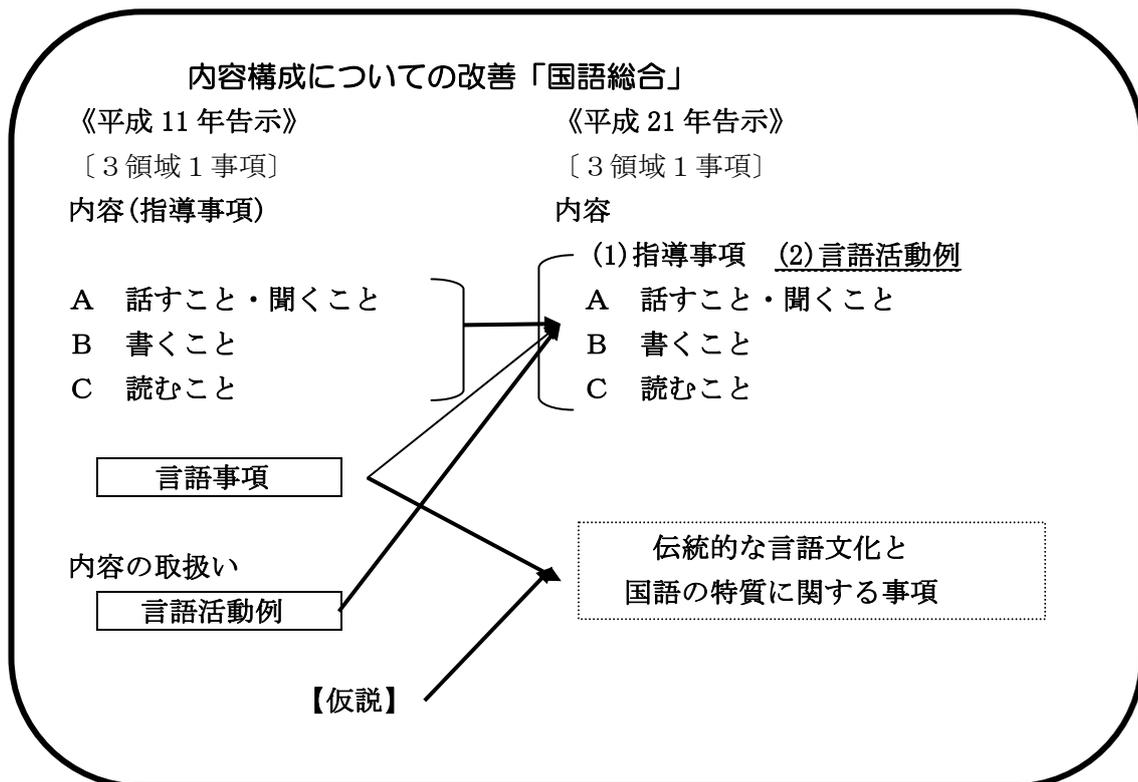
ウ 古典の指導については、我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する。

漢字の指導については、実生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、確実な習得が図れるよう、指導を充実する。書写の指導については、実生活や学習場面に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。

敬語の指導については、人間関係を円滑にし、日常の言語生活を豊かにするため、相手や場に応じた言葉遣いが適切にできるようにすることを重視する。言葉のきまりの指導については、系統的に指導するとともに、実際に文章を書いたり読んだりするときなどに役立つよう、指導の改善を図る。

読書の指導については、読書に親しみ、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするため、読書活動を内容に位置付ける。

教材については、我が国において継承されてきた言語文化に親しむことができるよう、長く読まれている古典や近代以降の作品などを、子どもたちの発達の段階に応じて取り上げるようにする。



「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

◎は、各選択科目において、より指導の中心となるもの

| | A 話すこと・ 聞くこと | B 書くこと | C 読むこと | 〔伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事 項〕 |
|------|--------------------|-----------|-----------|--------------------------------|
| 国語総合 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 国語表現 | ◎ | ◎ | | ○ |
| 現代文A | | | ○ | ◎ |
| 現代文B | ○ | ○ | ◎ | ○ |
| 古典A | | | ○ | ◎ |
| 古典B | | | ◎ | ○ |

エ 言語活動の充実

各科目及び領域の内容の(1)に指導事項を示すとともに、これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け、再構成している。これは、内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層明確にするとともに、各教科・科目等における言語活動の充実に資するためである。なお、内容の(2)に示したものは、中学校までも含めて既に指導していることである。

オ 言語文化に関する指導の重視

共通必履修科目である「国語総合」に、小学校及び中学校と同様に〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を設けるとともに、我が国の伝統と文化、とり

わけ言語文化に対する理解を深めることを主なねらいとする科目「現代文A」、「古典A」を設けている。

カ 学習の過程と系統性に配慮した内容の改善

小学校及び中学校では、学習の過程や各学年段階の指導内容の系統性に配慮した改訂がなされている。高等学校においても、中学校までの指導との円滑な接続を図り、発展的に指導できるよう、**学習の過程や系統性**に配慮して内容を改善している。

学習の過程を明確にすることは、**学習意欲の向上**や**学習習慣の定着**を図るために、学習の見通しを立てさせたり学習したことを振り返らせたりする指導につながるものである。また、**学習の系統性**は、**高等学校段階の学習に円滑に移行**し、必修修科目の内容を十分に理解するために、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導について配慮することと関連している。

キ 読書活動の充実

読書に関する指導については、生涯にわたって読書に親しむ態度を育成することや、情報を使いこなす能力を育成することを重視して改善を図っている。

ク 各科目の要点

(7) 「国語総合」

- ・ 教科の目標を全面的に受け、総合的な言語能力を育成することをねらいとした**共通必修科目**である。
- ・ 小学校及び中学校と同様に、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び**〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕**の3領域1事項から内容を構成している。
- ・ 話すこと・聞くことを主とする指導に15～25単位時間程度、書くことを主とする指導に30～40単位時間程度を配当する。
- ・ 読むことの指導では、読む能力を育成するとともに、読書の幅を広げ、読書の習慣を養うことに配慮している。読むことの指導のうち、古典と近代以降の文章との授業の割合は、おおむね同等とすることを目安とし、古典における古文と漢文との割合は、一方に偏らないようにしている。
- ・ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げることを示すとともに、従前、〔言語事項〕として示していたことも取り上げている。
- ・ 各領域において、実践的な指導の充実が図られるよう、話し合いや討論、発表をする、説明や意見の文章、随筆を書くなどの言語活動を例示している。

(イ) 「国語表現」

- ・ 話すこと・聞くこと及び書くことを中心として内容を構成している。
- ・ 目的や場に応じて言葉遣いや文体を工夫すること、国語における言葉の成り立ち、表現の特色や言語の役割の理解を深めることを取り上げている。
- ・ 討論する、解説や論文をまとめる、小説や実用的な文章を書くなどの言語活動を例示している。

(ウ) 「現代文A」「現代文B」「古典A」「古典B」

- ・ 科目の名称に付されている「A」「B」は、学習の順や、発展の程度ではなく、科目の性格の違いを示している。

現代文A

現代文B

| | | |
|--|------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化に対する理解を深める ・ 読書に親しむ態度を育成 | 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み、思考し、表現する能力を高める ・ 読書活動の推進 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化について探究する | 主な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読む能力を高める ・ 表現する能力を高める |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読み比べて話し合ったり批評したりする 等 | 言語活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を追究し、成果を発表したり編集したりする 等 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 近代以降の様々な文章 ・ 特定の文章や作品，文種や形態でまとまりのあるもの中心 | 教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 近代以降の様々な文章 |

古典A

古典B

| | | |
|--|------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な言語文化に対する理解を深める ・ 生涯にわたって古典に親しむ態度を育成 | 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 古典を読む能力を高める ・ 古典についての理解や関心を深める |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化について探究する ・ 古文と漢文のいずれか一方を教材とした指導でも可 | 主な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 読む能力を高める ・ 古文と漢文の両方を指導 ・ 文語文法も指導 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 音読，朗読，暗唱をする ・ 古典を読み比べて話し合う 等 | 言語活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を追究し，成果を発表したり文章にまとめたりする 等 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の文章や作品，文種や形態でまとまりのあるもの中心 ・ 古典に関連する近代以降の文章を必ず含める | 教材 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語文化の変遷についての理解に資するもの |

高等学校学習指導要領改訂のポイント

2 数学

(1) 改訂の基本的な考え方

ア 算数科，数学科については，その課題を踏まえ，小・中・高等学校を通じて，発達の段階に応じ，算数的活動・数学的活動を一層充実させ，基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け，数学的な思考力・表現力を育て，学ぶ意欲を高めるようにする。

イ 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能は，生活や学習の基盤となるものである。また，科学技術の進展などの中で，理数教育の国際的な通用性が一層問われている。このため，数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る観点から，算数・数学の内容の系統性を重視しつつ，学年間や学校段階間で内容の一部を重複させて，発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程を編成できるようにする。

ウ 数学的な思考力・表現力は，合理的，論理的に考えを進めるとともに，互いの知的なコミュニケーションを図るために重要な役割を果たすものである。このため，数学的な思考力・表現力を育成するための指導内容や活動を具体的に示すようにする。特に，根拠を明らかにし，筋道を立てて体系的に考えることや，言葉や数，式，図，表，グラフなどの相互の関連を理解し，それらを適切に用いて問題を解決したり，自分の考えを分かりやすく説明したり，互いに自分の考えを表現し伝え合ったりすることなどの指導を充実する。

エ 子供たちが算数・数学を学ぶ意欲を高めたり，学ぶことの意義や有用性を実感したりできるようにすることが重要である。そのために，

- ・数量や図形の意味を理解する上で基盤となる素地的な学習活動を取り入れて，数量や図形の意味を実感的に理解できるようにすること
- ・発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程により，理解の広がりや深まりなど学習の進歩が感じられるようにすること
- ・学習し身に付けたものを，日常生活や他教科等の学習，より進んだ算数・数学の学習へ活用していくことを重視する。

オ 算数的活動・数学的活動は，基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けるとともに，数学的な思考力・表現力を高めたり，算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために，重要な役割を果たすものである。算数的活動・数学的活動を生かした指導を一層充実し，また，言語活動や体験活動を重視した指導が行われるようにするために，小・中学校では各学年の内容において，算数的活動・数学的活動を具体的に示すようにするとともに，高等学校では必修科目や多くの生徒の選択が見込まれる科目に「課題学習」を位置付ける。

(2) 改訂の主なポイント

高等学校においては，目標について，高等学校における数学学習の意義や有用性を一層重視し改善する。また，科目構成及びその内容については，数学学習の系統性と生徒選択の多様性，生徒の学習意欲や数学的な思考力・表現力を高めることなどに配慮し改善する。

ア 科目構成は，「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」及び「数学活用」とする。

- イ 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」は，内容を見直し，次のような内容に再構成する。
- 「数学Ⅰ」は，高等学校数学における基礎的・基本的な知識や技能及びそれらを活用する能力などを身に付けることをねらいとし，中学校数学の内容との関連などを考慮して，例えば，数と集合，図形と計量，二次関数などの内容で構成する。
- 「数学Ⅱ」は，数学的な資質・能力を伸ばすことをねらいとし，「数学Ⅰ」に引き続く科目として内容の系統性に配慮して，例えば，いろいろな式（式と証明・高次方程式など），図形と方程式，三角関数などの内容で構成する。
- 「数学Ⅲ」は，数学に対する興味や関心から，より深く数学を学習したり，将来数学を専門的に扱うために必要な知識・技能を身に付けたりすることをねらいとし，例えば，極限，微分法，積分法などの内容で構成する。
- ウ 「数学A」及び「数学B」は，生徒の能力・適性，興味・関心，進路などに応じていくつかの項目を選択して履修する科目とし，例えば，確率，数列，ベクトルなどの内容で構成する。
- エ 「数学活用」は，「数学基礎」の趣旨を生かし，その内容を更に発展させた科目として設け，数学と人間とのかかわりや，社会生活において数学が果たしている役割について理解させ，数学への興味や関心を高めるとともに，具体的な事象への活用を通して数学的な見方や考え方のよさを認識し数学を活用する態度を育てることをねらいとする。
- オ 「数学Ⅰ」及び「数学A」には，実生活と関連付けたり，学習した内容を発展させたりして，生徒の関心や意欲を高める課題を設け，数学的活動を特に重視して行う課題学習を内容に位置付ける。
- カ 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」はこの順に履修するものとする。また，「数学A」は「数学Ⅰ」と並行履修またはその後の履修，「数学B」は「数学Ⅰ」の後に履修するものとする。